

20:11 しかし、マリヤは外で墓のところにたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。

20:12 すると、ふたりの御使いが、イエスのからだが置かれていた場所に、ひとり頭のところに、ひとりは足のところに、白い衣をまとうてすわっているのが見えた。

20:13 彼らは彼女に言った。「なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです。」

20:14 彼女はこう言うてから、うしろを振り向いた。すると、イエスが立っておられるのを見た。しかし、彼女にはイエスであることがわからなかった。

20:15 イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、それを園の管理人だと思って言った。「あなたが、あの方を運んだのであれば、どこに置いたのか言ってください。そうすれば私が引き取ります。」

20:16 イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」彼女は振り向いて、ヘブル語で、「ラボニ（すなわち、先生。）」とイエスに言った。

20:17 イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る。』と告げなさい。」

20:18 マグダラのマリヤは、行って、「私

は主にお目にかかりました。」と言い、また、主が彼女にこれらのことを話されたと弟子たちに告げた。

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のものであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られて、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言うてイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。

20:21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

20:22 そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」

マリヤは泣いていました。神である主イエスであっても死のままでは、それは悲しみ以外の何ものでもありません。死の絶望の力はそれほどに大きいのです。

マリヤにとっては、希望もなく、どうしたらいいか全くわからない状況でした。心も弱くなって泣くしかなかったのです。解決などありませんでした。しかし、彼女はこのような状態の中でも、死んでしまった後さえ、イエス様から離れなかったのです。いや遺体がなかったのですから、離れまいとしたのです。だからここで復活のイエス様にお会いすることができました。

彼女には何を悟れるような状態ではありませんでしたが、イエスご自身が彼女に分るように現れてくださいました。

何があってもイエス様から離れないようにしましょう。たとえイエス様がもういなくなっているように感じるような絶望の中でも、イエス様を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

